

千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科を受診、または入院中に院内紹介された患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年10月20日

呼吸器内科

呼吸器内科では、肺線維化の進行に DPP4 阻害薬が与える影響に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に診療情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2019年4月1日～2024年9月30日の期間中、以下(1)～(4)を全て満たす方。

- (1) 当院の呼吸器内科外来を初めて受診した、あるいは他の科へ入院していて、呼吸器内科へ院内紹介された結果、線維化を伴う間質性肺炎と診断された。
- (2) 呼吸器内科外来の初診時、または呼吸器内科への院内紹介時に、18歳以上であった。
- (3) 糖尿病の合併がある。
- (4) 2回以上の肺機能検査を受けた。

1. 研究課題名

「肺線維化の進行に DPP4 阻害薬が与える影響に関する後ろ向き研究」

2. 研究期間

2025年承認日～2026年9月30日

この研究は、附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

我々人間は、肺という臓器を使って日々呼吸をしています。その肺は、肺胞と呼ばれる非常に小さな袋が集まってできていますが、その袋の壁部分に炎症が起きたり、線維化と言って組織が固くなったりする病気を、総称して間質性肺炎と呼びます。間質性肺炎には、原因を調べてもはっきりしない特発性間質性肺炎と、薬剤や感染症によって引き起こされる二次性間質性肺炎がありますが、いずれの場合も時間と共に呼吸不全が悪

化し、治療が困難となることがあります。

線維化を伴う間質性肺炎に対しては、その進行を遅らせる抗線維化薬の保険適応があるものの、費用や副作用の問題で全ての患者さんに使用できる訳ではなく、未だに根治療法は確立されていないのが現状です。ところが、糖尿病の患者さんに処方されるDPP4阻害薬と呼ばれる経口血糖降下薬に、組織の線維化を抑制する働きがある可能性が、これまでの研究で示唆されています。もし、費用や副作用が問題となることの少ないDPP4阻害薬が、線維化を伴う間質性肺炎の治療薬として使用できるようになれば、間質性肺炎の治療は大きく進歩すると考えられます。

そこで、DPP4阻害薬の内服歴がある方と、そうでない方について、肺線維化の進行度合いに差はあるか、過去の診療録を遡って調査するのが本研究になります。なお、本文書の公開時点で既に亡くなられている方も、調査対象に含まれます。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている、以下の情報を利用します。

- ・患者プロフィール(年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、診断名など)
- ・治療経過(処方薬の内容、在宅酸素の使用など)
- ・各種検査結果(呼吸機能検査、胸部画像検査、血液検査など)

5. 研究組織(情報を利用する者の範囲)

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：呼吸器内科 川崎剛(職名)診療講師

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事

ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究に関する相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

呼吸器内科 小野真裕美（職名）医師

043（222）7171 内線 5474